

## 2. 試験時比重

強硬に於て行ったと目録に換定した結果は第2表に示すように有意差の存在は認められなかつた。故に圧縮強度は外皮層を除いた場合にはマタケで約96%、ハクケで約94%に低下するが内皮層を除いても影響はない。又比重は双方共に影響がない。

# 樟 幼 苗 の 含 脂 油 量 と 其 の 精 油 に 就 いて

日本専売公社 しょう 脂 試 験 場

西 野 敷  
北之園 陽徳  
原 口 勝 己

樟樹原木対策の一つとして品種の明らかなる優良母樹より種子を採集し播種方法並に播種粒数を選んで播種し発芽した幼苗は発芽後3ヶ月、6ヶ月、9ヶ月、1年目及び2年目の各時期に掘取り果実部振動に分け樟幼苗の生自状況並に晴日の至通に伴う含脂油率の変化及び含有成分の変移收得油種所含量等の調査を行った。

樟幼苗の含脂油率は発芽後晴日の至通に伴い一般に増加する。

葉莖部に於て発芽後1年目に於てやゝ劣るのは新芽の全体に対する影響が大きい為と思われる。発芽後3ヶ月目迄は油分のみであるが発芽後6ヶ月目以降は脂油を得た。

根部に於ては油分のみで徐々に増加する。收得精油量は徐々に増加し生体量に比例するを見る。

單位面積当生体收得量收得精油量は  $10m^2$  当成立木数発芽後1年目に於て972本発芽後2年目に於て248本の反が粗の反に比べるを見る。

葉莖油中に於ては発芽後9ヶ月目迄が樟腦の生成が盛んであると思われる。又発芽後6ヶ月目、1年目に於てサフロールの生成に変移があるので目付いかと思われる。

根油に於ては発芽後晴日の至通に伴う成分の変移は余り認められないが重油成分のサフロールが徐々に増加し発芽後3ヶ月目に於て3.6%発芽後9ヶ月目に於て5.0%発芽後2年目に於て80.7%であつた。

発芽後1年目、2年目に於て  $10m^2$  当最も收得量の多い区に於て收支計算を行つたが、収入は26円41銭、41円63銭であり支出は夫々530円33銭、660円57銭であり503円92銭、530円33銭の欠損となつた。